

親鸞さまの

【本文】

釈迦・弥陀の慈悲よりぞ

願作仏心はえしめたる

信心の智慧にいりてこそ

仏恩報ずる身とはなれ

【意識】

お釈迦様と阿弥陀様のお慈悲によつて

南無阿弥陀仏を信じて、極楽へ行き成仏したいという心がおこります。

信心がおこることので大切なことに気が付く(智慧)故に、

仏様から救われるご恩を何より大切に身とするのです。

【私の味わい】

浄土真宗のお仏壇は、伝統的に金仏壇であることが多いです。これは、阿弥陀様の極楽浄土の光あふれる世界を表しています。無量の光、限りない光が極楽浄土を、そして私たちにまで隈(くま)なく行き届いて漏らさない光なのです。

それぞれのお家にある電灯も光を發します。光という表れだけをとつてみれば、それは仏様の光と一見同様に思えるかもしれませんが、この二者には明確な違いがあります。

一つには、電灯は人の側が点けなければ、その力を發揮しないという事です。切つ掛けが人の側次第なのです。しかし、仏様の光は違います。人の側に全く意思がなくても、感謝がなくても、仏様の側から照らしたもうのが無量の光です。

二つには、電灯はただ機械の仕組みとして光を發しますが、仏様は私たちに憐れみたまうが故に光を發されます。慈悲のお心から私たちを照らし、極楽浄土への道を示さんがために表された光なのです。

お仏壇の仏様と、その世界が表された御莊嚴を拜見する時、金が使われた造形であるという表面的な見方をするとう体ないでしょう。仏様が、今、暗闇に向かつて光を豊かに放たれている。そのお陰で、私は極楽浄土への道が阿弥陀様によって開かれていることに気が付けた。お光の、阿弥陀様の有難さよ、と拝しながら手を合わせ、お念仏を称(とな)える日常を、今年も変わらず送りたいものです。